



脱原発世界会議 2012YOKOHAMA 企画報告書

- タイトル:「脱原発世界会議展示」
- 日時:1月14日、15日
- 場所:パシフィコ横浜 1F~4F 全フロア
- 視聴人数:10000人以上。
- 報告書記載者(文責):片岡和志 / ピースポート・Kataoka Photo Studio

核の最前線を駆け抜けてきたカメラマンや活動家、活動団体、また若手のアーティストから一般の市民まで。彼ら彼女らが取材してきた、そして作り上げてきた作品を展示。写真やアートによって参加者の視覚に、そして心に訴えかけるような展示を目的に企画。

●「原爆から原発へ」世界の核を追ったカメラマンの証言

担当者:新藤健一、豊田直巳、野田雅也、片岡和志

協力:豊崎博光、島田興生、本橋成一、森住卓、小松健一、ポレポレタイムス社、反核写真運動

①脱原発世界会議実行委員写真展【2F エントランス】

脱原発世界会議のメイン受付となる2Fに4枚の大写真を展示。

②「反核・写真運動」-広島・長崎の記録- 写真パネル展【2F エントランス】

未公開の写真を含め広島・長崎の原爆投下後の惨状を撮影した写真を数十点展示。

上記共に、この脱原発世界会議を象徴するかの写真を重すぎず軽すぎず良いバランスで展示できたため、多くの入場者、参加者にその意図・意味を視覚として訴えることが出来た。

●広河隆一写真展「チェルノブイリ 25年フクシマ元年」【4F・418・419 前】

担当者:特定非営利活動法人 広河隆一非核・平和写真展開催を支援する会

1986年のチェルノブイリ事故後、西側ジャーナリストとして最も早い時期に現地に入り2011年春までに50回以上の取材を行ってきたフォトジャーナリストの広河隆一氏。今回の福島原発事故後も即座に現地に入り撮影。自己から25年たったチェルノブイリと2011年の福島原発事故直後の現地の様子、広河氏の集大成を展示。

●「ナジェージダ」写真展【419】

担当者:本橋成一、ポレポレタイムス社

チェルノブイリ原発事故で被災した村に生きる人々を描いた「いのちの大地の物語」汚染地域の村人たちの生活と、その大地の豊かさを淡々と描きながら、放射能汚染の恐ろしさを見事に表現した本橋成一の写真展を開催。

●原爆の凶三部作(原寸大複製画)展示【1F エントランス】

担当者:原爆の図丸木美術館

広島原爆の惨禍を目にした丸木位里・丸木俊夫妻が描いた共同制作《原爆の図》。二人は生涯かけて原爆の悲劇を世界中に伝え、反戦反核を訴えました。その代表作《幽霊》《火》《水》の三部作を展示。

●世界ヒバクシャ展【4F・418】

担当者:特定非営利活動法人世界ヒバクシャ展

広島・長崎・チェルノブイリや各地の核実験場、ウラン採掘現場など世界各地のヒバクシャは、人類が生み出した愚かな現実の最大の証人です。その体験と証言を写真で伝え、核のない世界を目指す運動の輪を広げる展示を実施。

●再処理とめたい!-島田恵「六ヶ所写真展」と首都圏市民の取り組み-【4F 414-417 前通路】

担当者:再処理とめたい!首都圏市民のつどい

六ヶ所村の人々の暮らしや核燃料サイクルを撮り続けてきた写真家の島田恵さんの写真を通じて、六ヶ所再処理工場をはじめ日本の原子力政策を考える展示企画。

●脱原発ポスター展 in 世界会議【3F 312-314 前通路】

担当者:脱原発ポスター展、原発に不安を感じるママの会、みやぎアクション

政府の「原子力ポスターコンクール」に対抗して始まった「脱原発ポスター展」。東京電力の事故を受け、「デモに持っていけるポスターを!」とポスターを募集すると作品が殺到。初めてデモに行く人にも使えるツールとして利用されているポスターを展示。ドイツ、スペイン、アメリカでの展示も開催。

●原発と核兵器 -ヒバクから考える核エネルギー依存社会-【3F 311 前通路】

担当者:NPO 法人ピースデポ

「市民の手による平和のためのシンクタンク」として、核兵器廃絶に向けた調査・研究・政策提言等を行っている立場から、「原発」、「核兵器」を含めた核エネルギー開発の全体像を「ヒバク(被爆・被曝)」の視点で捉え直し、脱「核エネルギー依存社会」を考えるパネル展示を実施。

●FUKUSHIMA VOICE 【315 前】

担当者:JIM-NET(日本イラク医療支援ネットワーク)

JIM-NETでは、イラクで放射能の影響と思われる子ども達のサポートをしてきた経験を生かし、震災後に福島プロジェクトを立ち上げ、FUKUSHIMA VOICEや除染、移動保育、サマーキャンプなど震災後に活動を始めた現地の方々を通じ支援をはじめています。FUKUSHIMA VOICEでは「安全安心アクション」の原発事故に苦しむ女性たちの生の声を紹介。

企画者側の感想

「いつも行っている展示会の時よりも圧倒的に来客者が多かった。更には、足を止めて、じっくりと見てくれる方が非常に多かった。」

「視聴者の中には熱心にメモをとる姿もあり、展示している側としても、展示したかいがあった。」

「他の展示している方と交流ができ、今後共同で展示会などができればね。というように話が発展したことが嬉し

かった。」

「参加者の意識レベルがすごく高かった。」

「もう少し、事前に展示できる場所や設備などを見ておきたかった。照明設備や広さなど。」

参加者側の感想

「展示の量がとても多く、内容も濃密なものばかりだった。これだけでも来た甲斐があった。」

「こんなに多くのジャンルの展示が同じ場所で同時に行われているのを見るのは初めてだった。」

「1Fの原爆の図はすごい迫力があった。」

「展示している材木に統一感があって、どこで展示されているかパッと分かった。また木の香りも良かった。」

